



Well-being PRJ

2025 年度

東京歯科大学リカレント教育セミナー

(東京歯科大学ウェルビーイングプロジェクト主催 東京歯科大学同窓会共催)

プログラム・抄録集

日時：2026年3月29日（日）9時30分～12時30分
会場：東京歯科大学水道橋校舎新館 血脇記念ホール

2026年3月29日（日）

2025年度東京歯科大学リカレント教育セミナー

（東京歯科大学ウェルビーイングプロジェクト主催 東京歯科大学同窓会共催）

会場：東京歯科大学新館 血脇記念ホール

デジタル時代のクラウンブリッジ・有床義歯治療 －デジタルと機能的形態のフュージョンは必要か？－

総合司会：菅原 圭亮 東京歯科大学口腔病態外科学講座 准教授

座長：西井 康 東京歯科大学歯科矯正学講座 教授

関根 秀志 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学講座 教授

<開会挨拶> 9:30～

片倉 朗 東京歯科大学 学長

富山 雅史 東京歯科大学同窓会 会長

1. イントロダクション 9:40～

デジタル時代の歯科医療

西井 康 東京歯科大学歯科矯正学講座 教授

2. 地域臨床現場からの報告 9:50～

「デジタル技術導入の実際 －クラウンブリッジおよび有床義歯領域から－」

日常臨床で活かすデジタル歯科

－クラウン・ブリッジにおける印象精度アップのポイント－

木村 正人 医療法人きむら歯科医院 院長

臨床家としての CAD/CAM デンチャー

－デジタル化をどう捉え、どう使うか－

辻 将 医療法人社団八龍会すずき歯科医院 学問室室長

総合討論 ① 10：40～

休憩

3. 大学における教育・研究・臨床の最前線 11：00～

「デジタルと機能的形態のフュージョン」

クラウンブリッジ補綴学におけるデジタルデンティストリーの学生技能教育

四ツ谷 譲 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学講座 講師

デジタルパーキャルデンチャーに機能的形態は融合できるのか

－口腔内スキャナーによる顎堤印象の現状と課題－

田坂 彰規 東京歯科大学パーキャルデンチャー補綴学講座 教授

保険導入された3次元プリント有床義歯の臨床応用と機能的形態を考える

－総義歯の機能的形態をどう得るのか－

竜 正大 東京歯科大学老年歯科補綴学講座 准教授

総合討論 ② 12：15～

<閉会挨拶>

山本 仁 東京歯科大学 副学長

デジタル時代の歯科医療

東京歯科大学歯科矯正学講座 教授 西井 康

デジタル技術の進展は、歯科医療の診断・治療・教育の在り方を大きく変革している。口腔内スキャナーや CBCT, CAD/CAM, 3D プリンティング、さらには AI を用いた画像解析や治療支援システムの導入により、診断の高精度化、治療の効率化・予知性の向上が実現しつつある。本講演では、デジタルデンティストリーの発展の背景と現状を概観し、補綴・矯正・外科領域における臨床応用の概略を紹介する。

【プロフィール】



【略歴】

- 1986年 東京歯科大学卒業
- 1994年 東京歯科大学歯科矯正学講座 医員
- 1998年 東京歯科大学歯科矯正学講座 助教
- 2001年 歯学博士学位授与
- 2007年 University of Southern California Visiting Scholar
- 2014年 東京歯科大学歯科矯正学講座 講師
- 2018年 東京歯科大学歯科矯正学講座 准教授
- 2019年 東京歯科大学歯科矯正学講座 教授
- 2025年 東京歯科大学水道橋病院 副病院長
現在に至る

日常臨床で活かすデジタル歯科 －クラウン・ブリッジにおける印象精度アップのポイント－

医療法人きむら歯科医院 院長 木村 正人

近年、口腔内スキャナーをはじめとするデジタル歯科は日常臨床に広く普及している。一方で、クラウン・ブリッジ治療においては、マージンの不明瞭さや印象精度の不足により、十分にその利点を生かしきれていない症例も少なくない。本講演では、日常臨床においてデジタル歯科を効果的に活用するための考え方と実践的な工夫について解説する。とくに印象採得時におけるマージンの明瞭化に着目し、歯肉への配慮や操作上のポイントを臨床例とともに提示する。デジタルを適切に用いることで得られる、クラウン・ブリッジ領域における精度向上および治療効率の改善について考察したい。

【プロフィール】



【略歴】

- 2009年 東京歯科大学卒業
西船橋駅前歯科勤務（千葉県）
2016年 医療法人きむら歯科医院（岡山県）
副院長
2023年 同医院 院長
現在に至る

臨床家としての CAD/CAM デンチャー -デジタル化をどう捉え、どう使うか-

医療法人社団八龍会すずき歯科医院 学問室室長 辻 将

近年の CAD/CAM 技術の進展により、義歯製作においてもデジタル技術の応用が現実的な選択肢となりつつあり、プリントデンチャーも2025年12月に保険収載された。

口腔内スキャナーによる可動粘膜など動的構造体の再現性については議論が続く一方、臨床現場で私は空間（デンチャースペース）の把握からその解決法を模索している。手法や材料によって、それぞれの特性が存在するからだ。

義歯製作におけるデジタルトランスフォーメーションを考える場合、従来の工程を前提とするのではなく、デジタル技術の特性を踏まえて製作手順を再検討する視点も求められるのではなかろうか。

本講演では、臨床家の立場から CAD/CAM デンチャーの実際と、その臨床応用について整理する。

【プロフィール】



【略歴】

- 2009年 東京歯科大学卒業
- 2014年 東京歯科大学大学院歯学研究科（有床義歯補綴学）修了
- 2014年 つがやす歯科医院勤務
- 2016年 医療法人社団秀和会つがやす歯科医院副院長
- 2019年 医療法人社団八龍会すずき歯科医院勤務
- 2022年 医療法人社団八龍会すずき歯科医院学問室室長
- 2025年 一般社団法人口腔インプラント生涯研修センター 理事
- 現在に至る

クラウンブリッジ補綴学における デジタルデンティストリーの学生技能教育

東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学講座 講師 四ツ谷 譲

2014年に保険収載されたハイブリッドコンポジットレジンで製作したCAD/CAM冠の登場は、デジタルデンティストリーをより身近に感じる契機となった。このデジタル技術の補綴臨床への応用に伴い、学生教育における歯科補綴学の指導内容は日々ブラッシュアップが必要な状況である。

特にクラウンブリッジ補綴学が担当する固定性補綴装置に用いる歯冠補綴材料は、従来の金属・レジン・セラミックスという分類だけでは理解し難く細分化されており、対応する治療手技の多様化についての教育は難しい。支台歯形成だけでなく、精密印象、装着手技に関わる器材選択まで、その選択理由と併せて指導しなければならない。本講演では、デジタル歯科教育に関する現状と展望および当講座での技能向上を目指した取り組みを紹介する。

【プロフィール】



【略歴】

- 2004年 東京歯科大学卒業
2008年 東京歯科大学大学院歯学研究科
(歯科補綴学専攻)修了
2008年 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学
講座 助教
2014年 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学
講座 講師
2016年 イリノイ大学シカゴ校歯学部オーラル
バイオロジー講座 客員研究員
2018年 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学
講座 復職
2019年 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学
講座 講師
現在に至る

デジタルパーキャルデンチャーに機能的形態は融合できるのか -口腔内スキャナーによる顎堤印象の現状と課題-

東京歯科大学パーキャルデンチャー補綴学講座 教授 田坂 彰規

近年のデジタルデンティストリーの普及により、口腔内スキャナー(IOS)で取得した3DデータからCAD/CAM技術を用いて、クラウンやインプラント上部構造などの固定性補綴装置を製作することが一般化しつつある。しかし、パーキャルデンチャーのうち、特に遊離端義歯では顎堤粘膜の加圧印象や可動組織の取得が困難であり、IOSの応用には課題が残る。本講演では、当講座で実施したIOSによる顎堤印象（口腔内スキャニング）の精度検証や、マーカーを用いたスキャニング手法を紹介する。さらに、IOSを用いたデジタルパーキャルデンチャーの臨床応用例についても報告する。

【プロフィール】



【略歴】

- 2003年 東京歯科大学卒業
2007年 東京歯科大学大学院歯学研究科（歯科補綴学専攻）修了
2007年 東京歯科大学千葉病院（現・千葉歯科医療センター）レジデント
2008年 東京歯科大学有床義歯補綴学講座（現・老年歯科補綴学講座）助教
2013年 同 講師
2015年 東京歯科大学パーキャルデンチャー補綴学講座 講師（配置換え）
2018年 ドイツ連邦共和国ハイデルベルグ大学附属病院・補綴科 visiting professor
2020年 東京歯科大学パーキャルデンチャー補綴学講座 准教授
2025年 同 主任教授
現在に至る

保険導入された3次元プリント有床義歯の 臨床応用と機能的形態を考える －総義歯の機能的形態をどう得るのか－

東京歯科大学老年歯科補綴学講座 准教授 竜 正大

2025年12月に3次元プリント有床義歯が保険導入された。これは、コンピューター上で設計し、3Dプリンターを用いて造形製作された総義歯のことであり、製作ステップの削減や再製作の容易さといった点から、高齢者に対する総義歯治療において非常に有用である。その反面、適切でない形態や記録をスキャンすると、適切でない義歯が製作されてしまう。機能的な義歯の形態を得るには、通法を基にした義歯治療に関する確実な知識と技術が重要となる。

本講演では、当講座が2013年から培ってきた研究成果や臨床ノウハウを紹介とともに、今般保険導入された3次元プリント有床義歯に関するエビデンスや製作に関するポイントを中心に整理し、総義歯治療へのデジタル技術の臨床応用と機能的形態について考える機会としたい。

【プロフィール】



【略歴】

- 2005年 東京歯科大学卒業
- 2009年 東京歯科大学大学院歯学研究科（歯科補綴学専攻）修了
- 2009年 東京歯科大学有床義歯補綴学講座 助教
- 2014年 スイス・バーゼル大学歯学部補綴科客員教授
- 2015年 東京歯科大学老年歯科補綴学講座 助教（改組による）
- 2016年 東京歯科大学老年歯科補綴学講座 講師
- 2021年 東京歯科大学老年歯科補綴学講座 准教授
- 現在に至る